

社会 子どもの主体性を高める学習に向けて



POINT |
知・技

知識を子ども自らつかむ授業の工夫

社会科では、単に語句を身に付けるだけでなく、社会的事象を比較・分類したり総合したりしながら、バランスよく資質・能力を育成することが必要になってくるだろう。そのためには、「知識及び技能」の確実な定着が不可欠である。そこで、3つの取組を紹介する。

1 帯活動の実施

過年度の標準学力調査等の結果から、子どもたちの課題を分析することや、定期テストでの正答率などを踏まえ、特に強化したい分野や単元を明確にすることで、目の前の子どもたちに即した活動になるだろう。

例えば、授業の冒頭において一問一答形式のペアワークで、既習事項を振り返り、前時との学習のつながりを意識する活動を実践した。しだいに、記述問題に相当するような発展的なやり取りも見られ、授業中の発問に答える子どもが増えた。

このような取組を、課題意識をもちながら継続して行うことで、子ども同士が学び合い、知識の定着を図ることができるだろう。

2 学習した知識を活用した振り返りの工夫

本時の学習を踏まえた、より具体的な振り返りにするためのワークシートを使用した。その際、使用語句と3行程度の分量を指定することで、情報の過不足なく要点を整理する力を身に付けられるようにする。この振り返りのワークシートから、子どもの学習状況や理解度を把握し、授業改善につなげることもできるだろう。

<各時間のまとめ> 1. 江戸幕府の成立と支配の仕組み【P.114~115】 課題 江戸幕府は、どのように全国を支配したのか。 ○使用語句 【 制度化・体制 】 ・江戸幕府は幕藩体制と大名の配置の工夫や武家諸法度で大名たちを支配していた。徳川家光が参勤交代を制度化し経済的な負担を減らし幕府を反抗しなくなりさせた。
2. さまざまな身分と暮らし【P.116~117】

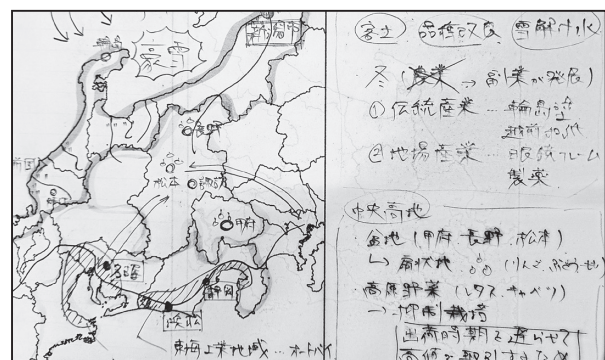
【1単位時間ごとに記入するワークシートの例】

3 ワークシートの工夫

地理的分野の学習では、発見や気付きを書き込めるように白地図と余白を確保したワークシートを配布する。子ども自ら山脈や河川などの自然地形を書き込むことで、発生する気象現象や土地利用、産業等について、一度に参照することができる。

例えば、各地に個性豊かな産業が発達している中部地方では、白地図に書き込むことで特色ある産業を比較することができる。これにより視野が広がり、近隣の大都市圏とのつながりから、既習の近畿地方や、次の関東地方への関心をもたせることができた。

このような工夫から、社会的事象の連続性や共通性を理解しながら学ぶことができるだろう。



【ビジュアル化したワークシートの例】

幕別町立札内東中学校 教諭 石川 誉

POINT 2
思・判・表

「見方・考え方」を働かせ、着眼点を明確にした学習展開の工夫

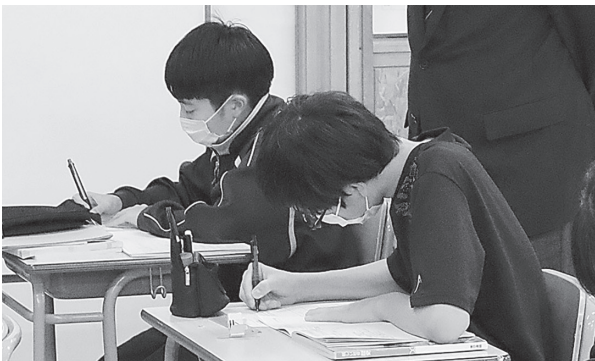
歴史的分野の学習では、各時代の特色や変化に着眼し、多面的・多角的に考察したい。

今回は、「明治維新」の内容を使い、「なぜ日本ではほかのアジア諸国に先駆けて、近代化が進んだのか」という単元を貫く課題を設定した授業を紹介する。中央集権国家の形成に向けた諸改革、文明開化によって変化した人々の生活を理解するとともに、外交と内政が変化していく過程に自ら気付くことができるようにした。

1 問いを生む場の設定

例えば、明治維新の三大改革（学制、徴兵令、地租改正）を扱う授業では、各政策の目的や概要を説明した後、実際に徴兵された割合が2割にも満たなかったことを示す資料を提示する。国民生活が大きく変化したと考えた子どもたちの思考が揺さぶられ、「三大革命後、政府はどのようなアプローチをしたのだろうか」という疑問から、追究する課題を生み出すことができた。

このように、予想や既習事項を覆したり揺さぶったりすることで問いが生まれ、主体的に追究する力を高められると考える。



【主体的に課題に向かう子どもの様子】

2 協働で解決する場の設定

明治維新の三大改革について、政府視点と国民視点で考察し、小グループで討議することで、多面的・多角的な考察を引き出すことができると考える。

第5章 開国と近代日本の歩み		___月___日
第3節 明治維新		
2. 明治維新の三大改革【P.170~171】		
①【 】に対して…		
〈政府〉		〈国民〉
メモ)		
②【 】に対して…		
〈政府〉		〈国民〉

【ワークシートの例】

この際、改革を肯定的に捉えられる資料と、国民の負担が重かったことを裏付ける資料を均等に用意することが大切だろう。

これらの資料の比較・分類等を通して、当時の国民は政策を肯定的に捉えていたのか否かを考えたり、年貢米の制度が廃止された理由などをその他の知識と関連付けたりすることで、この時代の特色について多面的・多角的に考察しようとすると考えている。

また、子ども自らが改革の内容を知りたいと思ったり、各政策の目的や効果を深く理解したいと表現したりする姿が見られ、協働的に解決する場につながった。

このように、「見方・考え方」を働かせ、着眼点を明確にすることは、資質・能力を育むことにつながるだろう。